

表紙写真について

岡山済生会総合病院

- 設計／(株)東畑建築事務所 (株)竹中工務店
- 施工／(株)竹中工務店
- 所在地／岡山市国体町
- 構造規模／RC、S/F10、P2
- 敷地面積／13,695㎡
- 建築面積／9,000㎡
- 延床面積／46,647㎡
- 竣工／平成27年11月



70数年にわたりJR岡山駅近くで地域医療を担ってきている「岡山済生会総合病院」は、既存施設の一部老朽化や急性期医療の高度化への対応のため、外来機能を既存施設に残した上で、553床の入院機能、手術、救急機能などを持つ新病院を、200メートル離れた敷地に移転新築しました。

災害拠点病院であることから、免震構造の他、ヘリポート、3日間対応の発電機、受水槽などを取り入れ、災害時の対応機能を高めています。地域の基幹病院として、12室の手術室や、救

急に既存の3倍規模を確保するなど、急性期対応力の強化を図るとともに、病棟は個室率を50%まで高めて、療養環境の整備を行いました。

外観は、既存病院や隣接する高齢者施設などとの連続性を意識した、建築群としてのデザイン展開を図っています。内部空間は、木漏れ日、風のゆらぎ、さざ波、緑をモチーフに、瀬戸内地域の暖かく穏やかな心地よさを感じさせる療養空間を目指したインテリアとしています。

株式会社

ディーエスハマモト

一級建築士事務所

ISO9001 認証取得

TOTAL・STABILITY・HAMAMOTO

大規模修繕工事
各種環境対応事業
調査 診断 設計 施工

〒731-0135 広島市安佐南区長束4丁目16-2
TEL 082-238-1511 FAX 082-238-1513

指定確認検査機関（中国地方整備局長指定第1号） 登録住宅性能評価機関（中国地方整備局長登録第5号） 登録建築物調査機関（中国地方整備局長登録第1号）
認定低炭素住宅 長期優良住宅 建築確認 住宅瑕疵保険 フラット35 適合証明 住宅性能評価 住宅省エネラベル

ハウスプラス中国は
迅速、的確な審査で、皆様の建物の
安全、安心をサポートします。

中国エリアをすっぴんカバーしています

Energica
中国電力グループ

ハウスプラス中国住宅保証株式会社
http://www.jutakuhosho.com/

広島本店：広島市中区国泰寺町1-3-32 国泰寺ビル1階
TEL：082-545-5607 FAX：082-545-5608
広島北支店：広島市安佐南区西原6-9-40-7 TEL：082-832-3310 FAX：082-875-4330
福山支店：福山市西深津町1-10-1 TEL：084-973-9143 FAX：084-973-9146

CPD認定プログラム(5～7月の広島県内実施分)

4月14日現在

日 時	プログラム名	単 位	主 催	連絡先
5/13	コンクリート構造物の品質向上・高耐久化のための知識と技術	6	インターウェーブ	099-812-0677
5/23	建築士会インスペクター養成講座	4	広島県建築士会	082-244-6830
5/25	基本をしっかりと押さえよう!! 技術提案と施工計画書作成のポイント	6	インターウェーブ	099-812-0677
6/ 7	建設現場におけるIT活用!～今知っておきたい便利ツールと人材育成向上術	6	インターウェーブ	099-812-0677
6/21	コンクリート構造物の耐久性と維持管理に関する基礎知識（前編）	6	インターウェーブ	099-812-0677
6/21	設備設計一級建築士定期講習	6	建築技術教育普及センター	03-6261-3310
6/22	若手・新入社員技術講習会	6	日本建築協会中国支部	082-232-6471
6/22	構造設計一級建築士定期講習	6	建築技術教育普及センター	03-6261-3310
7/13	建築士会インスペクター養成講座	4	広島県建築士会	082-244-6830
7/23	「建築数量積算の実務」講習会【躯体①】	6	日本建築積算協会	082-221-9759
7/24	「建築数量積算の実務」講習会【躯体②】	6	日本建築積算協会	082-221-9759
7/28	仮設安全監理者資格取得講習会	8	全国仮設安全事業協同組合	03-3639-0641
7/30	「建築数量積算の実務」講習会【仕上①】	6	日本建築積算協会	082-221-9759
7/31	「建築数量積算の実務」講習会【仕上②】	6	日本建築積算協会	082-221-9759

第1回 マラソンソフトボール大会を開催

交流厚生委員会 委員長 井手口 耕三

3月5日、「グリーンピアせとうち」において、第1回マラソンソフトボール大会を開催しました。

これまで、支部対抗ソフトボール大会を開催してきましたが、メンバーが集まらない等の多くの意見を頂き、これに替わる行事を模索していました。27年度は、東部エリア・西部エリアに分けて、勝ち負けにこだわらないマラソンソフトボール大会を行うことにしました。(マラソンソフトボールとは、イニング数を決めず、あらかじめ決めた時間まで試合を行い、守備交代・打撃交代を自由に行うことができるソフトボールです。)

午前10時半、総勢47人で試合を開始。グラウンドの横にはバーベキューコーナーを設け、食事も楽しみながらゲームを満喫しました。当日は天候も良く、参加された方々から「とても楽しかった」との声がたくさん頂きました。午後3時、西部エリア14対東部エリア20という結果で終了となりました。

10月頃、第2回大会の開催を予定しておりますので、開催概要が決まり次第にお知らせします。

竹中工務店

ビルへ。思いやる。創る、守る。

災害から人々の暮らしを守る。
エネルギーを創り、分けあう。
都市を、そして地球を思いやる。
これからのビルはこうじゃないとね。

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

2

3

第18回「建築なんでも探建隊」を開催

福山支部 小森 由香子



2月14日(日)、第18回「建築なんでも探建隊」を開催しました。今回のテーマは、「塗ってみよう珪藻土!〜オリジナルプレートをつくろう〜」。建築材料である珪藻土を子どもたちに塗ってもらい、小物でデコレーションしてプレートを作るという企画で、小学生14名とその保護者が参加されました。

事前に試作品を製作し、珪藻土を塗るフレームの塗り厚、デコレーション用の小物の選定、乾燥後の仕上がり状態等を確認。フレームはA4とA6サイズ程度の物を2種類、そして白とピンクの珪藻土を用意しました。子どもたちが小さな左官用のコテを使うのは難しいので、塗り拡げる道具は料理で使うゴムべらにしました。

まず、珪藻土は吸放湿性が高く、七輪や工業用の濾過材等に使用されていることを説明しました。その後、作業を開始。2色から好きな珪藻土を選んで塗ってもらいました。子どもたちはもとより、保護者の方々が熱心に小物選びや塗る作業を楽しんでおられました。デコレーションの小物はこちらが用意した物と参加者が持ってこられた物を、塗った珪藻土の上に自由に貼付してもらいました。貝殻等を河原へ拾いに行って用意した子もいました。シンプルに配置する子もいれば、所狭しと飾り付ける子もあり、いつもながら子どもたちの発想は、見ているこちらが楽しくなります。作業中に保護者の方からは、DIYで家の壁に塗れるか等の質問もありました。

作業後、余った珪藻土は下駄箱等で吸湿剤として使用して頂くよう、参加者へ持ち帰ってもらいました。アンケートでも皆さん好印象で、楽しんで頂けたようです。

公共施設維持保全ボランティアの活動

県北支部 坂井 泰司

県北支部では、建築士としての職能を生かした地域貢献を積極的に進めたいと考え、支部区域である三次市、庄原市、安芸高田市において、平成24年度から公共施設維持保全ボランティアとして、施設の修繕やメンテナンスを会員で行っています。平成24年度は三次市三和町の「敷名集会所」、平成25年度は庄原市口和町の「大月集会所」、平成26年度は安芸高田市向原町の「寺山地区多目的集会所」、この平成27年度は2月28日に三次市吉舎町の「安田集会所」で実施しました。



実施内容は、施設・器具のメンテナンスの方法や建具調整、床板の張り替え、内装修繕、雨樋・谷樋の修繕、スロープの設置や塗装工事等です。



建物を快適に、そして永く、きれいな状態で利用頂けるよう、直接使われる方と一緒に実際に建物をチェックし、我々も学ぶ良い機会ができたと思っています。

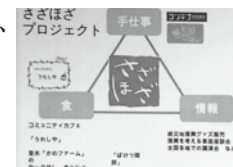


足立千佳子さんお話会 ～東日本大震災から5年～ 被災地復興支援活動の「縁結び人」から学ぶ「わたし達ができること」

呉地区支部 家頭 昌子

3月12日の「足立千佳子さんお話会」では、東日本大震災とその後の復旧について、実際に苦労されたことと、女性支援の活動や支援を繋げる仕組みを作り、被災地に暮らす人達が自ら取り組む復興のお話を伺いました。

足立さんが進めている「さざぼろプロジェクト」では、『被災地の復旧、再生、復興のプロセスを、地域に暮らす人の視点で具現化させる』『具現化させるためのエンパワメントのために、手仕事を通じて経済活動を実践する』『東北の暮らしの知恵を次世代、他地域に伝え、相互扶助の精神を養うきっかけとなる商品作りに取り組む』ことを目指して活動されています。「宮城の食を支える」ためにコミュニティーカフェを運営し、東北各地の第一次産品と伝統食、健康食などを活かし、心も身体も喜ぶ食事の在り方を提案。「東北の暮らしの知恵を発信



する」ためには、関係機関の情報、動きをキャッチしながら、震災によって失われた生活の再建に向けた地域のまとめ役となる女性リーダーを育成し、暮らしを支えるエネルギーや経済活動などの基盤の在り方を見直すきっかけ作りのための講演会や、WSを開催。そして「被災地での女性の仕事づくり」が「編んだもんだら」です。皆で作業することでコミュニティを確立し、仮設住宅で孤立する人を作らない、またお母さん達に自分のために使えるお金を持ってほしいとの思いで作られるようになりました。



災害はもはや人ごとではありません。今回、どこにでも起こりうる問題を丁寧に解決しながら進められてきた復興への道を伺ったことで、防災に対する学びと実践をさらに重ね、仮設住宅や被災地支援についても検討を重ねていきたいとの思いを強くしました。

「技術家の説明責任～温故知真～」講演会を開催

尾道支部 村上 克広

3月19日(土)、広島工業大学工学部名誉教授の佐藤立美先生を講師に、「技術家として構造から見た、知っておきたいあれこれ」と題し、講演会を開催(出席者26名)。日程変更があったにもかかわらず、福山、呉地区、一般の方など、多くのご参加を頂き、お礼申し上げます。

普段、我々が何の疑問もなく使っている公式や数値、法令や基準について明確な根拠はあるのか?なぜそうするのか?なぜそうしたら良いのか?それで問題は解決できるのか?といったお話してから、コンクリート工学の専門的な内容や耐震診断でのコンクリートコアの問題など、構造に関

する幅広い講演となりました。佐藤先生には多くの資料を準備して頂き、最後に質疑応答で講演を終了。大幅に時間延長して、充実した2時間半でした。



昨今の杭データ改ざん等、社会に対する建築士としての役割が改めて問われる中で、我々も更に見識を高め、襟を正し、日頃の努力を惜しんではならないことを改めて考えさせられる講演会となりました。最後になりましたが、佐藤先生、ありがとうございました。

安全で安心な住まいづくりをサポートします。



- ◆ 建築確認・検査
- ◆ 住宅性能評価
- ◆ フラット35 適合証明
- ◆ 長期優良住宅技術審査
- ◆ 低炭素建築物技術審査

◆ 住宅かし担保責任保険

住宅保証機構(株) (まもりすまい保険)
(株)住宅あんしん保証 (あんしん住宅瑕疵保険)
(株)日本住宅保証検査機構 (JIO わが家の保険)
(株)ハウスジューメン (ハウスジューメン住宅かし保険)
ハウスプラス住宅保証(株) (ハウスプラスすまい保険)



指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関

株式会社 広島建築住宅センター

URL: <http://www.hkjc.co.jp>

本社

〒730-0013 広島市中区八丁堀 15-10

TEL(082)228-2220 FAX(082)228-2231

営業所

〒720-0034 福山市若松町 8-22

TEL(084)928-3979 FAX(084)928-3974



「より早く・より公正に・より親切に」をモットーに
より確かなサービスを提供します



- 指定確認検査機関
- 登録建築物調査機関
- 住宅瑕疵担保責任保険業務
- 住宅省エネラベル適合性評価業務

- 登録住宅性能評価機関
- 適合証明業務(フラット35)
- 調査診断業務(耐震診断等)
- 建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)評価業務

- 指定構造計算適合性判定機関
- 長期優良住宅認定審査業務
- 耐震診断判定業務
- すまい給付金関連業務



株式会社 ジェイ・イー・サポート

URL <http://www.jesupport.jp/>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀 15-8-6F

TEL: 082-836-3300 FAX: 082-228-8201

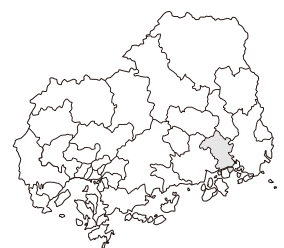
支店: 東京

e-mail: mail@jesupport.jp

尾道市原田町のまちづくり

尾道支部では、「原田町歴史・文化同好会」と一緒に、地域住民の参加と協働の下、豊かな自然と歴史、文化を誇る原田町を実現するためのまちづくり活動を行っています。「原田町歴史・文化同好会」は、平成25年に創立され、広島県尾道市原田町を拠点として活動する団体です。ここでは代表である佐藤守会長に、「原田町歴史・文化同好会」の活動を紹介して頂きます。

尾道支部 元廣 匡伸



原田町歴史・文化同好会の活動紹介

会長 佐藤 守

「原田町歴史・文化同好会」は、今年で設立 3 年という一つの節目を迎えます。回顧してみますと、地域の皆さんのボランティア活動に加えて、尾道市、中国建設弘済会、(公社) 広島県建築士会と、町内外から多大のご指導ご支援を頂き、着実に実績を上げることができ、衷心より敬意と感謝の意を表する次第です。

原田町歴史・文化同好会 設立の経緯

原田町は他の農山村地区と同様、過疎化・高齢化が進む町ですが、その一方で、「地域のもつ自然や歴史資源・文化を見直そう」という動きも興っています。そのきっかけは、平成22年に石塔研究家－「石塔ロマンの会」の吉池宏先生が梶山田矢原集落を訪れ、廃寺である「妙得寺」に残された墓苑の中から無縫塔を発見。歴史的・文化的にも非常に価値の高いものだとして評価され、「原田には宝が眠っている」と、その修復・保存を訴えられたことにあります。南北朝時代の貴重な石造物が存在していたということで、原田の地域にはたくさんの宝が厚いヴェールに包まれたままになっているのではないか。直接この発見作業に奉仕した矢原小組の意向から原田町内へ呼び掛け、広く宝探しを目指して平成25年1月に誕生するに至りました。現在、会員・非会員を合わせ62名で活動を行っています。

原田町歴史・文化同好会の活動

会の規約の目的に掲げたのは、「地域住民の参加と協働の下、豊かな自然と歴史、文化を誇る原田町を実現するためのまちづくり活動を行い、地域の発展と地域住民の福祉増進に寄与すること」です。

◆原田町の歴史の研究の継続

発見墓石の研究を発端に、近くの古城址、城主や戦いを彷彿させる今に残る地名等々、遂に地域に残る古文書「小原乱軍記」の発見にたどり着き、小原地域を中心に2大勢力が県東部を巻き込む大戦乱の様相を見ることができました。小学校学習発表会では、この乱軍記を基に、城主と住民との絆をテーマに演出するまでに関心の高まる事態でもありました。この研究は続いており、さらに奈良時代に遡って尾道の古刹「摩訶衍寺」をテーマに学ぶ予定に

しています。風光明媚な天下絶景の地に、著名な「行基菩薩」が建立され、また国の重文指定の「十一面観音菩薩」が安置され、多くの伝説を持つことから、多大な関心をもって学習を期待しているところであります。



◆史蹟、民話・伝承話の地への説明板・案内板設置

宝物は続々とといった感じで、美しい自然に目を転じ、エドヒガン、エヒメアヤメ（誰故草）、「摩訶衍寺」のヤマモモ等々、古い歴史を秘めて伝わっている寺社や伝説による有名な箇所への由緒・説明板を設置。他の地域の人たちにも分かりやすく理解、勧誘できるガイドマップを作成。また、町内の見どころ案内板の設置等を推進してまいりました。



◆閉校した原田中学校を「原田芸術文化交流館」へ

平成26年3月、原田中学校閉校という事態が生じてきました。幾重にも残念な心情ですが、これを抑え、逆手にとらえて地域活動の拠点施設にし、若者にも魅力あるものにし、さらには移住・定住人口の増加へも繋げていくべく、原田地区社会福祉協議会と本会とで施設への取り組みを始めました。そして、運営に意欲を持つ主体と社協役員が集まり、活用案を検討。教育委員会から社協が校舎を借り受け、内装など改修工事をして、昨年4月、「原田芸術文化交流館」の名称にて生まれ変わりました。また、社協の構成団体と活用主体の代表者で「活用委員会」を構成し、館の運営をしているわけです。

本同好会も、交流館のテナントとして入室。この2階には原田出身で著名な彫刻家・矢形勇氏の「彫刻記念室」があり、大小様々な像が陳列され、その迫力は人を引き付けて止まないものがあります。その雰囲気溢れ続く部屋を「原田町歴史文化資料室」とし、彫刻・陶芸の展示や、原田ゆかりの著名な人々を紹介するコーナーに加えて、同好会で研究してきた資料も掲示しています。



続く部屋には「はらっこのもり」、また「ハンドメイド雑貨 honnori...」を設け、ここでは地域にとって最大の宝物「幼児」等を明るい自然に恵まれた環境の中で、立派に育てていく場所を提供して頂いています。母子ともに伸びやかに、喜び溢れる交流の場なのです。

また、1階の「ヤマソラパーチカフェ」の部屋では、地元直産のコーヒーがあり、スイーツも地元農産物で作られたもので運営。イベント参加時などいつでも気軽に立ち寄って歓談をし、息抜き、憩いの場として、こよなく楽しんでいただけるルームです。いろんな世代の人、町内外の人などとの繋がりが日増しに広がっているようです。

以上の他にも、交流館では、レンタル形式で各種の教室、イベントなどが次第に増えてきていると聞き及んでいます。交流館は、地域活性化の期待を担って誕生した施設です。このように、交流館が地域の活性化を牽引する施設として十二分に機能を発揮してきていることは、誠に力強い限りです。



これからの活動に当たり

長く続く道程に紆余曲折があろうと、「もう懲りた」と投げ出すのではなく、観音様のみ教えのままに「忘己利他（もうこ・りた）」の精神を生かし、創設の初心に返り、明るい地域創生を目指して歩みを進めてまいりたいと存じます。各位のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げる次第です。

原田町歴史・文化同好会の歩み

●平成22年度以前

石塔ロマンの会・吉池宏さんによる「妙得寺（梶山田矢原地区）の石塔群」の調査など

●平成23年度

尾道市・まちづくり活動助成制度導入

＊矢原地区の「妙得寺の石塔群」「殿さまの五輪供養塔」の復元

＊地域の史跡、民話・伝承話の地に「説明板」の設置

●平成24年度

中国建設弘済会・地域づくり等助成制度

＊「吾平の五輪供養塔」の復元（上平健次さん）

＊23年度に引き続き、地域の史跡、民話・伝承話の地に「説明板」の設置などの事業

＊「原田町自然・歴史探訪マップ」の作成、「原田町歴史・自然探訪会」の開催など

＊「原田町歴史・文化同好会」の設立

●平成25年度

中国建設弘済会・地域づくり等助成制度

＊原田町歴史・文化同好会による“豊かな自然、歴史・文化を誇る原田町まちづくり事業”のスタート

＊24年度に引き続き、地域の史跡、民話・伝承話の地に「説明板」の設置などの事業

●平成26年度

中国建設弘済会・地域づくり等助成制度

尾道市・まちづくり活動助成制度

＊原田町歴史・文化同好会による“豊かな自然、歴史・文化を誇る原田町まちづくり事業”の2年目

＊原田町歴史・文化同好会による“原田町、生涯現役、生涯学習のまちづくり事業”のスタート（中学校跡を活用した“原田芸術文化交流館”の開設準備）

●平成27年度

(公社) 広島建築士会・地域貢献活動助成制度

尾道市・まちづくり活動助成制度

＊原田町歴史・文化同好会による“原田町、生涯現役、生涯学習のまちづくり事業”の展開

＊原田町歴史・文化同好会による“原田地区みどころ情報”発信プロジェクトのスタート

●平成28年度

(公社) 広島建築士会・地域貢献活動助成制度

＊原田の特性である歴史・文化を活かした有益な事業を実施検討中

「呉YWCA」の建物は「なかなか遺産」? (後篇)

呉地区支部 副支部長 家頭 昌子

昨年9月26日の全建女の分科会で、岩手県建築士会一関支部の阿部さんが、「なかなか遺産第1号ー達古袋小学校」の保存と活用のお話をされました。意見交換会で「呉YWCA」のことをご相談し、各県のヘリテージマネージャーの意見も聞くことができました。その時は、いずれなかなか遺産に立候補できればいいな、というぐらいの気持ちでしたが、その2週間後、県の事業委員会主催の講演会の講師が、「国際なかなか遺産推進委員会」代表の腰原幹雄先生だったという巡り合わせで、講演会翌日の10月11日、「呉YWCA」において頂き、お話をさせて頂きました。その時に、なかなか遺産に立候補したいとお伝えしたのが新しい展開の幕開けでした。

昨年10月17日、月1回のYWCA会員の声を聞く会で、「なかなか遺産」になったからといって経済的支援が受けられるわけではなく、自分達が努力して維持していくことになりはしないよ。ただ、HPに載ることで多くの人に知ってもらうきっかけになります。とにかく今はここを知ってもらうこと、色々な人に来てもらうことから始めましょう」と話しました。そこからの展開は驚くほどの変化があり、会員からは団体を維持していくための様々な提案がありました。シェアハウス、介護事業、障害者福祉サービス案、子どもたちの放課後施設…。1件ずつ条件や必要な資格等を調べては検証を繰り返し、女性の自立支援として起業サポート事業がスタートしました。

今年2月に一関の方々が呉に来られる時、腰原先生と村松伸先生が同行されることになりました。そうすると、会員の意識もさらに変わり、急速に良い方向へと流れが変わりました。なかなか遺産に認定してもらえるかも?—それだけで未来に希望を持てたのです。



2月13日の講演会当日、全建女の分科会に参加された島根県の女性委員長など64名の参加を頂き、盛況の中、見学会に続き講演会が始まりました。まず呉地区支部まちづくり部会が、呉YWCAの生い立ちと状況を紹介。続いて腰原先生による「構造学者から見た『なかなか遺産が生まれた理由と価値』」、村松先生による「なぜ、なかなか?なぜそこそこか?『なかなか遺産』とそこそこ保全」、一関支部の阿部さんによる「達古袋小学校の保存活動から『なかなか遺産』へ」。呉YWCA名物の肉まんを食べながらの交

流会では、普段はあまり発言されない会員の方も活発に意見を述べられ、希望と喜びが満載の意見交換会となりました。



私は、「あなたにとって呉YWCAってどんな場所ですか?」と幾人かに尋ねた2年前のことを思い出していました。どなたも共通して持たれている思い、それは呉YWCAが集まれる方たちにとって、とても大切な場所、心の拠り所だということ。ここがあったから…という言葉に象徴される、大切な大切な場所だということを再認識しました。あの日、ご縁によって人は繋がり、世界がどんどん広がっていく、そんなご縁を繋ぐ場所であり続けてほしいと思ったこの建物で、なかなか遺産の輪で皆が繋がっていくことができたことに感謝しています。

今後、保存活用を進めるに当たり、建物の改修が必要となります。「なかなか遺産になるということは、その努力を認定するだけでなく、認定されることでさらに地域の繋がりに役立っていくことです」と村松先生が話されました。これから先、この建物の改修を建築士会メンバーが核となって進めることで、建築士会と地域との連携を作ることができるよう努力したいと思います。「妖精なかなか」がくすくと笑いながらくつろげる空間にすべく、皆様のご協力をよろしくお願いします。

